

インタビュー

松阪市高齢者保健福祉計画等策定委員会

高齢者福祉サービスや介護サービスは、今地域が必要としている取り組みや目標を定めた計画書に沿って実施されます。令和3年度から始まる第9次高齢者保健福祉計画及び第8期介護保険事業計画を策定するため、「安心して暮らせるまちづくりのためには何が本当に必要なのか」を策定委員会で話し合ってきました。今回は市民委員の皆さんからお話を伺います。



市民委員 斎藤さん

市民委員として活動して感じたことを教えてください。

斎藤さん

訪問看護リハビリステーションで理学療法士として働きながら、介護予防教室等の講師もしており、普段から高齢者の皆さんと関わっています。

地元の高齢者保健福祉を少しでも良いものに出来ればという思いから市民委員に応募しました。委員活動は、これから自分たちが取り組むべき課題、地域の皆さんとどのように向き合っていくかを考える良いきっかけになったと感じています。

田中さん

委員として活動するまでは介護サービスに関わる機会も少なく、介護保険の

仕組みなどは詳しく知りませんでした。委員会に参加することで、高齢者に向けたサービスや仕組みがとても細かく作られていることを知り、驚きました。私が住んでいる地域にはサロンや宅老所などがあまりありません。しかし、これらの仕組みについての認知が広がれば、きっと手を挙げる人が出てくるのではないのでしょうか。

前野さん

市や地域包括支援センターが様々な取り組みをしていることをこの委員会で知り、ありがたいと感じました。

その反面、近所や身近な人から「こんなサービスを知らない」という声を聞くこともあります。地域の皆さんとの認識の差が大きくあり、情報共有の徹底の必

「安心して暮らせるまちづくり」のために必要なことは？

要件を感じています。閲覧板や広報に加えて、若い世代も取り入れやすいICTなど、複数のツールを用いて情報を広げることで、伝わりやすくなると思います。

サービスを提供する人や行政に任せきりではなく、自ら行動し、介護予防・フレイル予防に取り組んだり、支援の担い手になってもらったりすることが必要です。介護サービスや仕組みについて身近な皆さんと話し合ったり、多世代で連携したりしながら元気なまちづくりを進めていきたいと思っています。

【問】 高齢者支援課 ☎53-4099